

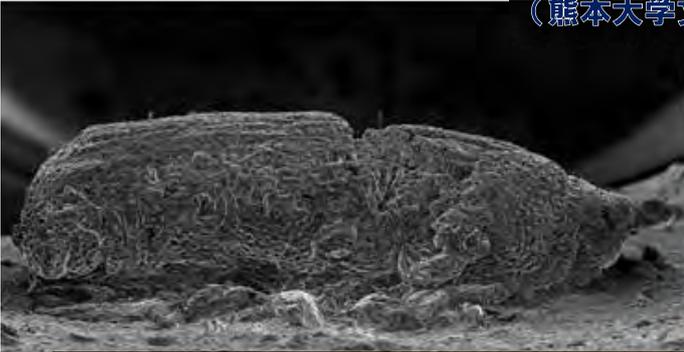
タネ・ムシが語る新たな歴史像

—古民族植物学から見た東北アジアの農耕史と生活史—

講師：小畑弘己

5kV X22 1mm 43 30 SEI

(熊本大学文学部教授)



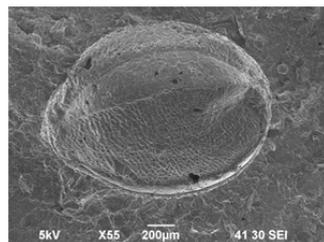
日時：2013年3月9日(土) 14:00～ 場所：愛媛大学 メディアセンター

5kV X30 500µm 32 29 SEI

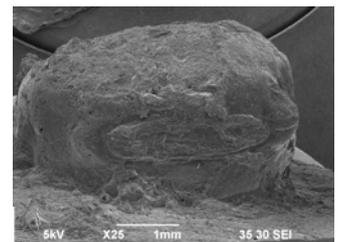
土器の表面に穀物の種子や昆虫の圧痕が残っている。この圧痕を利用して穀物や昆虫の種類を同定することで、農耕の存在を証明することができる。熊本大学の小畑弘己氏は、縄文時代の遺跡土壌や土器などの遺物から、ドングリやアズキ、ダイズ、コウゾウムシなどの「生」の資料を採取することに成功し、実証性の高い古民族植物学の手法から精緻に分析・研究をしてこられた。近年では、モンゴルや極東ロシアなどにも調査地域を広げ、東北アジアの「初期農耕」の実態を明らかにしつつある。日本のみならず、世界の先史農耕研究をリードする最先端の研究である。講演では、東北アジアを広く見渡しなが、先史時代の農耕史と生活史を語っていただく。



アワの圧痕(上中段遺跡)



アズキの圧痕(塚ヶ段遺跡)



【講師紹介】1959年長崎県生まれ。1982年熊本大学法文学部史学科考古学専攻卒業。2001年、博士(文学)学位取得。現在、熊本大学文学部教授。2012年、「東北アジアにおける穀物栽培化過程の革新的研究」で、第25回浜田青陵賞受賞。2012年、第6回九州考古学会賞受賞。主な著書に、『東北アジア古民族植物学と縄文農耕』(雄山閣2011年)。『シベリア先史考古学』(中国書店2001年)など、多数。

入場無料

お問い合わせ：愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター

電話：089-927-8391 Email：kotetsuAIC@gmail.com

HP：http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/



愛媛大学(城北キャンパス)